

Arcserve® Backup r17

新機能、拡張機能 解説

> Arcserve Backup r17 新機能/拡張機能

新機能

Exchange Server の詳細リストア ユーティリティ

- Exchange アイテムを詳細レベルでリストアするためのツールを搭載

拡張

vSphere 6.0 Update1 および VDDK6.0 Update1 のサポート

- vSphere 6.0 Update1、VDDK6.0 Update1 に対応
- VVOL 環境もサポート

拡張

4Kディスクの Native サポート

- 1セクタあたりのサイズが 4KB となる「4Kディスク」にネイティブ対応
- バックアップ元、バックアップ先として 4TB 以上の大容量HDDを利用可能

拡張

LTO-7 テープ ドライブのサポート

- より大容量、高速になった LTO-7 テープドライブを使用可能

> Arcserve Backup r17 新機能/拡張機能

拡張

Arcserve UDP との連携強化

- 復旧ポイントをテープにバックアップするジョブを UDP 側でサブミット可能
- UDP の RPS データストア・フルシステムのバックアップをサポート

拡張

対応OS、アプリケーションの追加

- Windows 10 (バックアップ対象、Arcserve マネージャ)
- Exchange Server 2016 (バックアップ対象)

拡張

SQL Server 2014 ベースの Arcserve DB

- Arcserve DB にデフォルトで最新の SQL Server 2014 SP1 Express Edition を採用

拡張

JRE 1.8 の使用

- インストール時に導入される JRE は、セキュリティの向上した JRE1.8 を採用

> Exchange 詳細レベル リストア ユーティリティ

こんな時に
便利！

- タスク等 電子メール以外のアイテムやパブリック フォルダにも対応
- バックアップ時間を短縮したい

現) r16.5 の Exchange 詳細レベル リストア

バックアップ時に作成したカタログから、
詳細レベル アイテムをリストア



新) r17 の Exchange 詳細レベル リストア

- Exchange 2007/2010/2013/**2016** に対応

- - **カタログ作成不要**
 - **バックアップ時間短縮**



- r16.5と同じ方法も可能 (Exchange 2007/2010/2013)

> UDP との連携強化 ①UDPコンソールだけで管理

こんな時に
便利！

- D2D2T の設定や監視をするために複数製品の画面を使いたくない
- UDP のタスクと連動してテープにバックアップしたい

UDP 側のタスクとして Arcserve Backup の D2T ジョブを作成

プラン1

- ① バックアップ タスク
- ② レプリケート タスク
- ③ テープへのコピー タスク

UDP 側でタスク追加

タスクの種類: テープへのコピー

ジョブキュー

Arcserve Backupにジョブが追加

Arcserve Backup 側での設定は不要

※FSD も利用可能。
※従来どおり、Arcserve Backup でジョブ作成も可能。

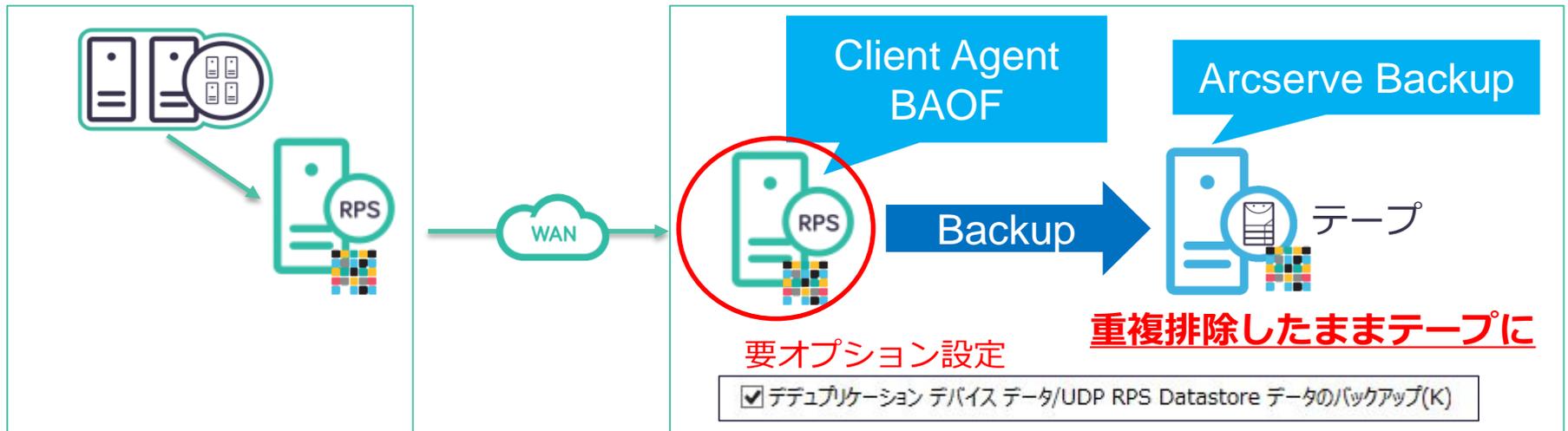
> UDP との連携強化

②UDP 復旧ポイントサーバ (RPS) のバックアップ

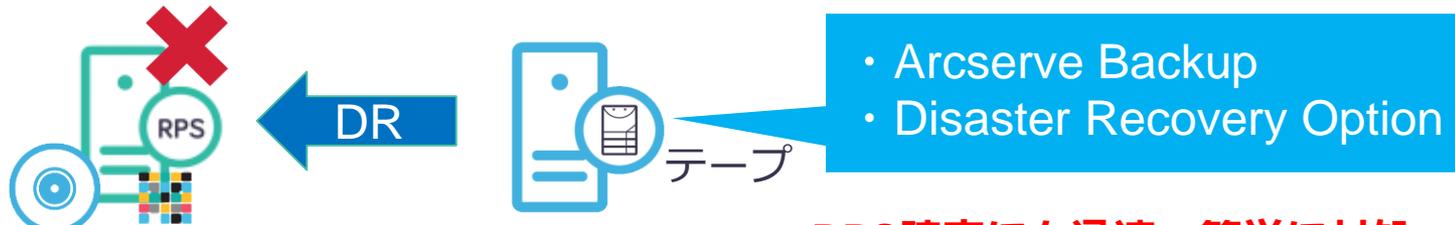
こんな時に
便利!

- ➔ RPS データストアを重複排除したままテープにアーカイブしたい
- ➔ RPS 全体をバックアップし、システム障害にも迅速に対応したい

RPS データ ストアを含むノード全体の VSS バックアップが可能



RPS 障害発生時にはテープから Disaster Recovery でシステム全体を復旧



DR後はUDPのリストアソースとして利用可能

RPS障害にも迅速・簡単に対処

> vSphere 6.0 Update1 / VDDK6.0 Update1 サポート

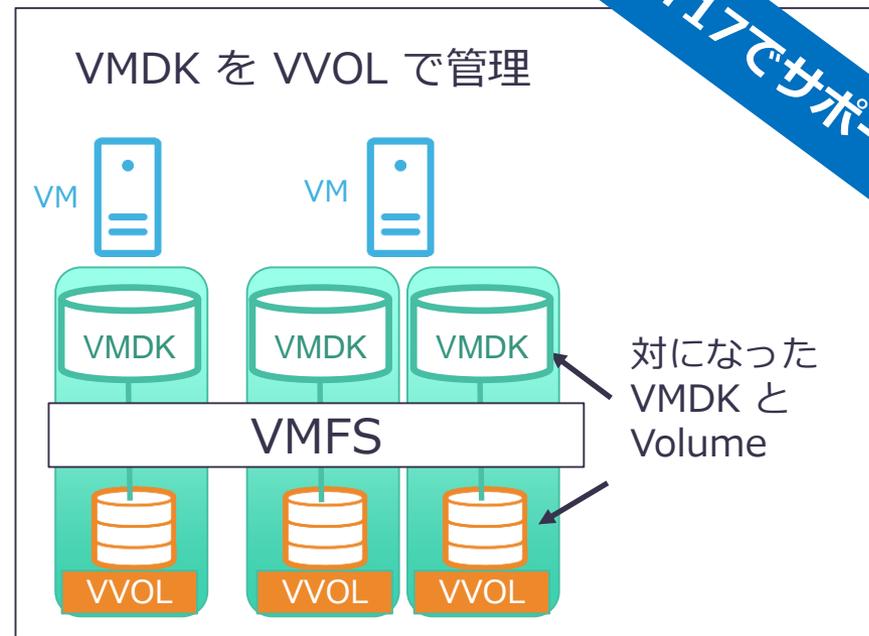
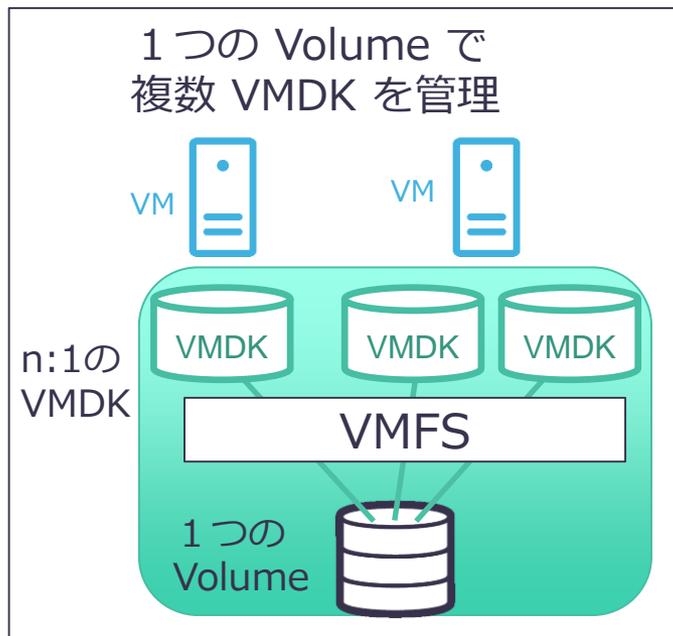
こんな時に
便利！

→ 最新 vSphere 環境を保護したい

→ VVOL 使用環境でもバックアップ構成・運用を変えたくない

VVOL (Virtual Volumes) とは？

- VMDK ごとに仮想的なボリューム「VVOL」を作成
- 柔軟な管理を実現し、パフォーマンス低下を防ぐ



arcserve®